



四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、瀬戸内しまなみ海道の「大島」、「伯方島」と、離島である「鵜島<sup>うしま</sup>」とを結ぶ航路で、このたびバリアフリー対応船舶を導入

され、離島住民の生活の足を支えておられる船舶運航事業者と、この航路の利用者にお話を伺いました。

## 鵜島の概要

鵜島は愛媛県今治市沖にある大島と伯方島の間にあり、面積 0.76km、周囲 4.4kmの島です。人口は 33 人（平成 22 年国勢調査）で、主に柑橘類や、島らっきょうの栽培を中心に生計を立てています。鵜島の南西には能島という無人島があり、鵜島とともに、かつてこの地域で活躍した能島村上水軍が拠点としていました。観光資源としては、以前から、急流を巡る水軍体験等で賑わっていましたが、最近では小説「村上海賊の娘」で話題になっています。また、平成 26 年には今治市と台湾が姉妹自転車道協定を締結し、しまなみ海道をサイクリストの聖地として発信していることから、鵜島のサイクリングコースにも国内外のサイクリストが訪れています。

愛媛県 鵜島



## 船舶・航路の紹介、事業者インタビュー

大島と伯方島はしまなみ海道の橋で結ばれていますが、離島である鵜島にとって唯一の交通手段が、尾浦～宮窪航路です。この航路は、鵜島住民が、通勤や通学、商取引・経済活動のために利用することはもとより、生活用水や食料・生活物資のほか、郵便・宅配便の輸送、ごみ・し尿処理といった、生活インフラの一部を担っています。さらに、鵜島には医療機関がないため、救急患者の搬送を行う等、非常に重要な役割を担っています。

現在、尾浦～宮窪航路では、地元の事業者であるシーセブン(有)が、19 トンの旅客フ

フェリー1隻で、1日7便（日祝は6便）を運行しています。しかし、就航船の老朽化により、ドック入りの期間が長期化することや、船内設備の改善やバリアフリー基準対応が求められていたことから、国の補助制度である、地域公共交通確保維持事業の活用により、平成27年3月に新造船への代替が行われました。

◆「のしま7」概要

|      |          |      |       |      |      |
|------|----------|------|-------|------|------|
| 用途   | 旅客カーフェリー | 船質   | 軽合金   | 航行区域 | 平水区域 |
| 総トン数 | 19トン     | 長さ   | 13.5m | 幅    | 6m   |
| 深さ   | 1.6m     | 航海速度 | 12ノット |      |      |
| 就航日  | H27.3.3  | 旅客定員 | 35人   |      |      |



客室入rootScope



手すり点字



乗降場所表示



バリアフリースイレ



高齢者等優先席



車いすスペース

🗣️ 薬師寺船長にお聞きします。代替した新造船の利用者からの評判はどうか？

代替前の船は、空調設備がなかったので、夏は暑く、冬は寒くと、利用者の方にとっても不便を強いていましたが、今度の船はエアコンを客室に設置しているので、とても快適にご利用いただいています。



船内設備に関しては、これまでも利用者の方から意見をいただいていたので、改善することが出来てよかったと思います。また、新造船への代替により、バリアフリー基準に適合することが出来ました。

🗣️ 高齢者の利用が多いかと思いますが、乗組員2名では、入出港作業もあり、ご苦労もありませんか？

鵜島から利用される方は高齢者がほとんどですが、みなさんお元気です。車いす利用の方は私たちが介助を行いますが、ほとんどは同伴のご家族による介助があります。

🗣️ 近年、外国人観光客の誘致が進み、特に昨年には今治市と台湾が姉妹自転車道協定を結んだことにより、外国からのサイクリストも増えているかと思いますが、外国人旅行者の対応は大変ではありませんか？

土日を中心に観光客は増えてきていますね。外国人観光客も訪れますが、大抵の場合は引率の方が同行しているので問題はありません。引率者がいない場合は、身振り手振りで対応することになります。


🗣️ その他にこの航路付近での観光資源はありますか？




毎年4月に能島で「桜まつり」が開催され、多くの観光客が訪れます。「能島の花見」として知られており、無人島で2日だけ花見を楽しむことが出来るということで、大体毎年800人～1千人の方が来られ、今年は600～700人の方が能島を訪れ、私たちがピストン運航で対応

しました。このまつりでは、地元小学校児童により、能島水軍太鼓も披露されます。このほか、鵜島港待合所を地元のNPOがカフェとして改装して話題になっています。鵜島では鵜ならぬ「海あひる」が歓迎してくれますのでぜひお越し下さい。



 新造船の就航式の際にも、地元小学校のみなさんが、就航をお祝いして演奏を披露していましたね。この航路が地域にとって、なくてはならないものであることを痛感しましたし、まるで、家族のような存在なのではないかと思います。



 村岡社長にお聞きします。全国的な人口減は、ここ鵜島航路の地域でも同様かと思いますが、日頃のご苦労や航路維持に向けてのお考えをお聞かせ下さい。

この船は、鵜島への生活用水を運んだり、時には救急搬送も行います。また、鵜島への生活物資の輸送もっており、言わばライフラインのような存在です。

つい最近ですが、しまなみ海道が事故で通行止めになり、本船が急遽代替ルートとして増便ピストン運航で対応しました。この時は短い時間の通行止めでしたが、長期間になれば大変なことになると思います。橋の代替としてのフェリーの役割は非常に大きいと思います。こうしたことから私たちとしてもあらゆる経営努力で航路維持を図っています。例えば、冬場の最終便は、利用者も少なく、また、漁船が錯綜し、灯火が十分でない港内での夜間航行は危険を伴うため、冬場の最終便を減便する、季節運航形態を地元提案しています。ただし、こうした経営努力では到底航路維持は出来ませんので、島が孤立しないためにも、補助金だけでなく、行政も一緒に考えていただきたいと思います。



### 利用者からの声

航路の利用者からは、「大島での買い物や、伯方島、今治市内への通院のために利用している。新しい船になって、エアコンが付いてとても快適になった。乗り心地もよくなった。」と、新造船の導入が喜ばれています。

一方、「以前は、フェリーの到着時間と最寄りのバス停の発車時刻に5分以上の余裕を

持たせたバスのダイヤだったが、今は5分以内の接続の便もあり、気象・海象の影響で接岸が遅れば、バスは既に発車してしまっている。改善要望を行う窓口もない。」といった声もありました。

### インタビューを終えて



今、我が国は、人口急減や少子化など、多様かつ重大な課題に直面しています。人口が減少する中で、経済活動を刺激しつつ成長を維持するには、域外の人々の活力を取り込むことが必要であり、各地域間の「交流人口」の増加や、モノの流動の促進が極めて重要であり、特に離島や中山間地域において求められると言えます。このため、地域の交通ネットワークのさらなる充実や交流拠点の強化を図る必要があるわけですが、地域間のヒト・モノの流動を拡大

する交通政策の立案に当たっては、まず、交通の動向についての現状把握や分析、情報収集など、地域の交通に関する調査・研究が必要です。消費者行政インタビューは、現場に入って、地域の課題を把握し、関係者に発信することを目的としています。今回のインタビューでは、尾浦～宮窪航路の抱える課題が浮き彫りになりました。ひとつは、フェリーとバスの乗継ぎの問題。交通サービスの向上に当たっては、個々の事業主体ごとにサービスが提供されていることから、複数のモード・事業者をまたぐ部分でのサービス水準の確保が疎かになりがちです。余裕を持った接続ダイヤの設定により、サービス向上を積極的に推進することが必要ではないでしょうか。もうひとつは、災害時においても交通機能や社会経済活動ができる限り維持されるよう、代替ルートとしてのフェリー航路の位置づけ、確保維持が重要ではないでしょうか。

インタビュー実施日：平成27年5月25日（月）・聞き手：竹内、鋸本